

平成25年度協働事業提案募集による採択事業の概要 No.8

- 1 事業名 : 備中高梁フィールドミュージアム事業
備中高梁の自然・歴史・文化を活用した体験型環境学習
- 2 実施団体名 : 特定非営利活動法人フォレストフォーピープル岡山
- 3 協働担当課 : 環境課環境保全班

4 事業概要

当該団体がこれまで実施してきたプログラムを対象年齢別に8つのプログラムに体系化し、備中高梁の自然・歴史・文化の魅力を再構築し、地域全体をフィールドミュージアムに見立てた「体験型環境学習プログラム」として実施する。

「フィールドミュージアム」とは、その土地の歴史・風土・文化・自然等を“屋根の無い博物館（ミュージアム）”に見立て、その価値を再発見していく仕組みである。

本事業はこれにより、日本人が大切にしてきた伝統的な自然観を育み、参加者自身が「社会との繋がり」や「持続可能性」を意識し行動できるようになることを目指す。

5 事業の流れ等

(1) 夏の環境学習キャンプ

ア 実施日 平成25年8月10日、11日

イ 概要 小学生を対象に高梁美しい森において1泊2日で実施。

初日はマイ箸、マイカップ作りや火おこし体験、星座観察等を行った。2日目は森林インストラクターによる昆虫などの自然観察会を行った。

(2) 里山林の利活用を学ぶ（第1回キノコウォッチング）

ア 実施日 平成25年10月5日

イ 概要 宇治地区で実施。キノコの採取と鑑定を行い、キノコの発生する自然環境についても学習する機会とした。

(3) 里山林の利活用を学ぶ（第2回キノコウォッチング）

ア 実施日 平成25年10月12日

イ 概要 高梁美しい森で実施。キノコの採取と鑑定を行い、キノコの発生する自然環境についても学習する機会とした。

(4) 備中高梁トレイル

ア 実施日 平成25年11月16日

イ 概要 中国自然歩道を中心に、常連寺・愛宕山神社・備中松山城・城下町を巡るコースを設定し、各テーマ別（文化・歴史、植物、野鳥等）にガイドが同行し解説を行った。参加者はガイドの解説を聞きながら、約15kmのコースを走破した。

(5) 河川の利活用を学ぶ（治水と新たな取り組み）

ア 実施日 平成25年11月21日

イ 概要 講師に郷土史研究家松前俊洋氏を招き、倉敷市内に残っている水門や水路を訪れ、その歴史と仕組みについてや高瀬舟などの舟運や利水についての解説を行った。また、酒蔵や発電所の見学を行い、それぞれの施設から高梁川の豊富な水の利活用について説明を受けた。

(6) 備中高梁フィールドミュージアム・フォーラム

ア 実施日 平成25年12月4日

イ 概要 広島修道大学西村仁志氏の講演を実施するとともに、先進的な取組をしている企業、ESD国際会議担当者などを招いてシンポジウムを行った。

(7) 森の幼稚園

ア 実施日 平成25年12月5日

イ 概要 地域の幼稚園児等を対象に、高梁美しい森で実施。どんぐりについての話やどんぐりをポットに植え付ける作業を行った。

(8) 探鳥エコハイク

ア 実施日 平成25年12月14日

イ 概要 臥牛山周辺を会場に、この時期飛来する冬鳥について、その生態や野鳥を探す際のポイントを解説しながらハイキングを行った。

6 成果・効果

専門家による解説を行うことで、周辺地域住民も知らなかった地域の魅力を再発見することができた。また、地元住民を支援スタッフとして活用することで、中山間地域住民と参加した都市部住民との交流機会を得ることができた。加えて、学生をボランティアスタッフとして積極的に受け入れることで、参加した学生も、地域の繋がりや環境に対して「気づき」を得られる良い機会となった。

7 今後の課題等

プログラム毎に対象者を限定し、対象者がより参加しやすい日程を確保することや対象者に合った効果的な広報・情報発信を行うことで集客力の向上を図る必要がある。またスタッフの能力を向上させること及びボランティアスタッフへの事前レクチャーを徹底させる必要がある。

今後の展開としては、他地域との広域的な連携を強化し、中国自然歩道を活用したロングトレイルコースの設定や各種イベントへの相互参加を行っていく。また地域の教育機関と連携を強化し、プログラムへの参加を促すことで既存プログラムの充実化及び定着化を図っていく。

8 実施状況

	
<p>小学生エコキャンプ</p>	<p>キノコウォッチング</p>
	
<p>備中高梁トレイル</p>	<p>河川の利活用を学ぶ</p>
	
<p>備中高梁フィールドミュージアムシンポジウム</p>	<p>森の幼稚園</p>

1 事業名 : 荒廃茶園復活と地紅茶のまち“高粱”発信事業

2 実施団体名 : 百姓のわざ伝承グループ

3 協働担当課 : 農業振興課

4 事業概要

(1) 耕作放棄地となっている茶園を“美しい茶畑”に復活させる事業

荒廃している茶園を復活・再生するため、都市住民や大学生などの参加者を募り、「荒廃茶園復活応援団」を結成し、茶園の刈り込み、除草作業などを行う。また、お茶摘み体験、私だけの紅茶づくりを開催し、お茶農家との交流を図る。

(2) 地紅茶のイベントで高粱を、商店街を活性化させる事業

昨年が続いて2回目となる「高粱地紅茶まつり」を地元の商店街を会場に開催し、地元高校生や大学生に参加・協力を呼びかけてイベントを行い、商店街の活性化と備中高粱の観光の魅力アップにつなげる

5 事業実績

(1) 荒廃茶園の復活・再生事業

<第1回>実施日 : 平成25年6月22日(土)

参加人数 : 50名(応援隊 : 34名、地元農家 : 11名) 普及、市 : 5名

概要 : 荒廃茶園の枝の片付け、草取り、肥料まき、お茶摘み

<第2回>実施日 : 平成25年8月3日(土)

参加人数 : 42名(応援隊 : 24名、地元農家 : 15名) 普及、市3名

概要 : 荒廃茶園の草取り、お茶摘み、釜炒り茶、紅茶づくり体験、お茶の淹れかた教室

<第3回>実施日 : 平成25年9月21日(土)

参加人数 : 16名(応援隊 : 6名、地元農家5名) 普及、市5名

概要 : 荒廃茶園の草取り、地元農家との交流会、紅茶の淹れかた教室

(2) 地紅茶のまち“高粱”発信事業

ア 実施日：平成25年11月24日(日)

イ 概要：地紅茶カフェ、地紅茶セミナー、日本茶教室、地紅茶とスイーツ、高校生による各種パフォーマンスと体験コーナー（手話歌、備中神楽、書道パフォーマンス、コーラス、吹奏楽、消しゴムはんこ作り、フラワーアレンジメント他）

ウ 来場者数：約600人（他に高粱高校、高粱城南高校生、吉備国際大学学生を含めて180名）

6 成果・効果

(1) 荒廃茶園復活の作業は、暑い時期の作業のため参加者が集まるか心配していたが、お茶に関心のある人や大学生を中心に延べ100人以上の参加となり、作業がはかどった。今期は約10aの茶畑で台切りをして茶園再生の第1段階を実施することが出来た。収穫（お茶刈り）は3～4年後になる予定である。

<参加者のアンケートから>

- ・ 初めて茶畑に入って新鮮な感動だった。草取りの作業は大変だったが、みんなで作業することは楽しかった。来年もまた参加したい。
- ・ お茶摘み、紅茶づくりは貴重な経験となった。
- ・ 美味しいお茶の淹れ方を始めて知った。
- ・ 普段はペットボトルのお茶しか飲まないが、きちんと淹れたお茶はとても美味しかった。
- ・ お茶農家からも若い人たちがたくさん茶畑に来てくれて元気が出た。

以上のような、うれしい意見を聞くことが出来た。

荒廃茶園の再生は数年間継続して取り組んでいく必要があり、これからも若い人たちや都市住民の人にも応援をしてもらい、美しい茶畑を復活させていきたい。

(2) 地紅茶のまち“高粱”発信事業では、昨年の全国的な規模のイベントから今年は小さな地紅茶まつりとなった。地元の高中生、大学生と駅前商店街を舞台に、いろいろな催しを若いパワーで元気なイベントを開催することができた。昨年が続いて2回目の参加というお客さんも多かった。

＜参加者のアンケートから＞

- ・ 高校生の頑張っている姿が良かった。いいイベントだった。ずっと続けて欲しい。
- ・ 今回、地紅茶を初めて飲んでどれも美味しかった。もっと国産紅茶を宣伝する意味でも継続するほうがいい。
- ・ 地紅茶が外国の紅茶と比べて飲みやすい。
- ・ もっといろんなお菓子（ロールケーキやクッキーなど）も用意して欲しかった。
- ・ インディアンマト焼きそばが美味しかった。
- ・ 地紅茶セミナーでは一本のお茶の木から緑茶、紅茶、ウーロン茶が生まれることを初めて知った。
- ・ 日本茶教室では日本茶の淹れ方を初めて勉強してとても参考になった。など、東京、広島県など県外からの参加者もいて、うれしい声を聞いた。また、昨年実施した「地紅茶列車」にまた乗りたいという要望もあった。

7 今後の課題

- (1) 荒廃茶園復活では、どうしても暑い時期の作業となり、市外から参加してもらうと、作業のスタート開始の頃に気温が高く、トラブルが出やすくなる。開催日程の調整と時間帯を検討する必要がある。
- (2) 高粱地紅茶まつりの開催については、学校行事との関係から開催日程、企画内容の決定が遅れ、広報・PRが不十分だった。そのためか、参加者は当初目標の1000人には届かず、約600人となった。次回は早めの広報活動により、更に多くの参加者を集めたい。

8 実施状況

(1) 荒廃茶園復活再生



[参加者に説明をする(6月22日)]



[作業風景(6月22日)]



[作業が終わって記念写真(6月22日)]



[となりの茶畑で少しお茶摘み(6月22日)]



[手揉み茶の体験(8月3日)]



[美味しい日本茶の淹れ方教室(8月3日)]



[ボンネットバスの前で記念写真(8月3日)]



[参加者全員で意見交換(9月21日)]

(2) 第2回高梁地紅茶まつりの様子



[受付付近の様子]



[高校生の地紅茶カフェ]



[カフェのお客様]



[フォックスフェイスのコンテスト]



[書道パフォーマンス]



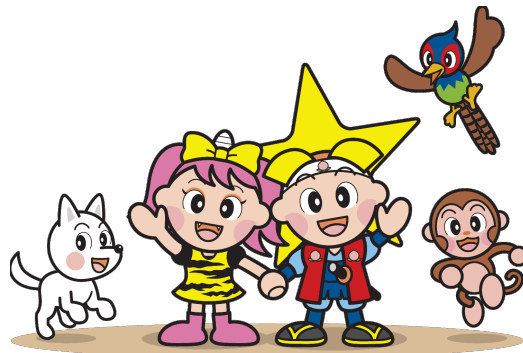
[地紅茶特別セミナー]



[高梁高校、高梁城南高校生の吹奏楽]



[日本茶教室]



平成25年度協働事業提案募集による採択事業の概要 No.10

1 事業名 : 自閉症療育セミナー及び治療教育相談会

2 実施団体名 : NPO法人 岡山県自閉症協会

3 協働担当課 : 福祉振興課障害福祉・保護班

4 事業概要

一般市民をはじめ自閉症児（者）を持つ保護者や支援者の方々を対象に、自閉症・発達障害に対する理解を深めていただくと共に、日頃より自閉症・発達障害児（者）に関して家庭や職場、地域で抱えている様々な問題に対する解決方法を提供する事を目的として実施する。

5 事業の流れ等

9月（中旬）ポスター、チラシの配布

10月1日 参加者募集開始（締切：自閉症療育セミナー11月14日）

（〃 : 治療教育相談会 10月31日）

11月（上旬）治療教育相談会申込者の個々の相談内容に対応できる相談員の振分

11月17日 自閉症療育セミナー及び治療教育相談会を開催

（場所：新見市学術交流センター）

セミナー参加者153名、相談会8組、託児サービス利用14名

6 成果・効果

県南西部に比べ発達障害に関するセミナー等の開催が少ない県北西部での開催により、この地域での発達障害に対する理解や支援の機運がより一層高まった。


また、治療教育相談会により発達障害未診断の相談者が児童精神科受診に繋がった。

7 今後の課題等

県北西部での発達障害に関するセミナー等の開催要望は従来から多く寄せられている。また、今回のセミナーは内容が「小学校就学時の支援」が主となり中学校以降の内容が省略されたことへの不満がアンケートに寄せられた。

そのため、セミナーや相談会の開催を増やすことにより幅広い年代の要望に応える必要がある。

8 実施状況

	
<p>会場入口</p>	<p>セミナー</p>
	
<p>セミナー</p>	<p>相談会</p>
	
<p>相談会</p>	<p>託児</p>

平成25年度協働事業提案募集による採択事業の概要 No.11

1 事業名 : 高校生による備中で暮らすまちの匠(先人)への聞き書き

2 実施団体名 : 「聞き書き」実行委員会

3 協働担当課 : 協働推進室企画班

4 事業概要

高校生が、地域で暮らす先人(匠)と出会い、その話を「聞き」、そのまま「書き」おこし、文章にまとめる。また、研修会・発表会の実施、成果物である冊子作成等を行う。

なお、今年度の参加高校は、笠岡工業高校6名、岡山龍谷10名、矢掛高校6名及び倉敷中央高校3名であった。

5 事業の流れ等

(1) 「聞き書き」研修会

ア 実施日 平成25年6月7日、6月8日

イ 概要

講師に澁澤寿一氏を招き、「聞き書き」を行う高校生を対象に、聞き書きの方法などの研修を実施した。

(2) 「森聞き」上映会&トークセッション

ア 実施日 平成25年7月30日

イ 概要

聞き書きを行う高校生を取材したドキュメンタリー映画「森聞き」の上映会を実施するとともに、聞き書き経験者である高校生から、体験談を聞いた。

(3) 聞き書きの実施

ア 実施日 平成25年7月～9月

イ 概要

高校生が先人の所へインタビューに赴き、聞いた内容を文章に起こしていった。

(4) 「文章構成」研修会及び「発表の仕方」研修会の実施

ア 実施日 平成25年10月5日、10月12日、12月7日

イ 概要

聞き書きに参加した高校生に対し、教諭や地元アナウンサーが研修を行った。

(5) 聞き書きフォーラム(成果発表会)

ア 実施日 平成25年12月21日

イ 概要

澁澤寿一氏の講演を実施するとともに、高校生が実施した聞き書きについて

て、文章にまとめたものの発表を行ったり、感想を述べるなどした。

6 成果・効果

高校生が、地域に根ざして生きている先人（匠・名人）から、知恵や技術、ものの考え方を「聞き書き」し、その匠・名人なりの工夫や知恵、技術が加わった人生観を、先人の言葉だけで文章にまとめ、若い世代へとつないでいく作業であり、高校生もお年寄りから話を聞く機会が少なくなっている中、その地域の文化・伝統や技を守り継承していくためにも、良いきっかけとなった。

7 今後の課題等

実際に聞き書きを実施する生徒数は、先生の負担等から限界があるため、事業の地域への広がりを図るなど、効果的な事業啓発を検討する必要がある。

また、事業を継続的に実施するためには、財源確保の問題がある。

8 実施状況

	
「聞き書き」研修会	「聞き書き」研修会
	
「森聞き」上映会&トークセッション	「森聞き」上映会&トークセッション
	
聞き書きフォーラム（成果発表会）	聞き書きフォーラム（成果発表会）